

2020年新年を迎えて

理事長 有馬真喜子

いつも国連ウィメン日本協会に心をお寄せいただき、励まして下さり、ありがとうございます。今年も一緒に歩みを進めてまいりましょう。

今年は日本にとっても、国連ウィメン日本協会にとっても特別な年です。まず日本にとっては、いうまでもなく東京オリンピック・パラリンピック開催の年です。オリンピック憲章にあるように、どんな人をも差別することなく、人間の尊厳が守られる平和な世界で、スポーツの祭典が行われることを願います。

国連ウィメン日本協会にとって特別な年というのは、UN Womenが、設立10年を迎えること、そして第4回世界女性会議・北京会議から25年を迎えることです。国連で唯一、女性の問題を担っているUN Womenは、この機会に、女性・少女の課題、ジェンダー課題の一層の進展を目指しています。アメリカ、ドイツなど世界に12ある国内委員会（国連ウィメン日本協会は日本国内委員会です）も、それに協力します。

この特別な年のテーマを、UN Womenは「Generation Equality」と決めました。「平等を目指すすべての世代」という日本語訳もあるようですが、英語ではカッコイイ言葉であっても、その意味を正しく日本語で捉えようとするとなかなか難しいですね。私は、どの世代も手を携えて男女平等の実現を、というようなことかと考えていますが……。



次に北京会議から25年についてです。北京会議には、きっと参加なさった方もたくさんいらっしゃるでしょう。約5万人、日本からも約6000人が参加しました。政府間会合では、北京宣言と、「女性と貧困」など12の重大問題領域を中心とする361項目の「行動綱領」が採択されました。NGOは、ほんとうに無数の

ワークショップを開催しました。

25年後の今年ですが、規模は小さく、まずメキシコで会合、次いで7月パリでフォーラムと伝えられています。詳細は今年3月の国連女性の地位委員会で決定されるでしょう。



国連ウィメン日本協会は、皆さまのご努力によりお寄せいただいた大切なお金を、ロヒンギヤなど難民キャンプの女性・少女が、手に職をつけて自立し、尊厳を取り戻すプロジェクトを中心に拠出して参りました。成果は着実に上がっているとの報告があり、うれしい限りです。

前述したような特別な年、女性や少女に希望を与えるプロジェクトの重要性はますます認識され、その実現のための資金の確保もますます重要になってくるでしょう。国連ウィメン日本協会でも、そのための方策を工夫し、実現しようと努めています。皆さまの一層のお力添えを、何卒よろしくお願い申し上げます。

北京から25年、「行動綱領」づくりに3年間関わった私は、あのころよく言われた言葉をあらためて思い出しています。それは「Think Globally Act Locally」。世界を見渡して考え、足元から行動しよう、です。世界をよりよく変えるのは、どんなに小さくても私たちの一つの「行動」だと、今、あらためて思っています。



気候変動と女性の気候行動

気候変動はすべての人に影響を与えますが、環境、経済、そして社会的衝撃をまともに受けるのは世界でも最も貧しい人々や立場の弱い人々、とりわけ女性と少女です。UN Womenは気候行動において女性のリーダーシップを促進させることを、活動の中核に置いています。今号は女性と共に進める気候行動の重要性を取り上げます。

ジェンダー視点に立った 防災・減災・復興を目指して

理事 田中 由美子

日本は、台風、地震、津波、火山噴火、土砂崩壊、洪水などの自然災害に見舞われることが多く、災害大国と言われています。また、世界でも、気候変動により干ばつ、洪水、氷河の崩壊、水面上昇、森林火災などが広範に起きています。世界の自然災害の半分以上はアジア地域で起きており、その被害額も増加しています。

災害が起きると、特に経済社会的に脆弱な人々が、より被害を受けやすく、復旧・復興も困難で時間がかかります。例えば、阪神・淡路大震災では、高齢単身世帯の女性の多くが、平屋の簡易な家屋に居住していたためにより大きい被害にあいました。東日本大震災でも、障害のある人々の死亡率は健常者の割合の2倍だったと報告されています。開発途上国でも、貧しい女性は教育レベルが低いために避難情報や避難場所についての知識がなかったり、自分で意思決定ができず、子どもや高齢者や大切な財産である家畜などを伴って避難するため逃げ遅れたり、水泳や木登りが女性に禁止されているなどの慣習が重なり、より大きな被害にあうことが報告されています。また、被災後は電気がなく暗かったり、がれきや物影が増え、治安も悪くなるため女性や子どもに対する暴力やハラスメント、人身取引も増加します。

災害による様々なリスクを削減する方法を協議するために、国連防災組織（UNDRR）は、10年ごとに国連防災世界会議を開催してきました。第1回目は1995年に横浜市で、第2回目は2005年に神戸で、第3回目は2015年に仙台市で開催しました。第2回目の会議で採択された「兵庫行動枠組」に、初めて防災、復旧、復興に関するあらゆる政策、計画、意思決定過程にジェンダーの視点を取り入れるべきだということが明記されました。しかし、2011年の東日本大震災では、避難所に間仕切りや男女別のトイレがなく女性のプライバシーが守られなかったり、性別役割として女性ばかりが避難所で食事や介護の世話をしたため職場復帰が遅れて解雇されたり、妊産婦や障害のある人々、外国籍の人々への配慮がなかったりなど、様々な問題が浮上しました。

仙台の世界会議で合意された「仙台防災枠組」(2015-2030)は、予防や事前の備えを重視した減災、人間中心のより災害に強い復興（BBB）、女性、障がい者、

高齢者など多様な人が防災計画の立案及びそれらの実施に参画すること、特に女性と若者のリーダーシップの重要性を強調しています。仙台防災枠組及び気候変動への対応は、「持続可能な開発目標」(SDGs)のゴール11と13にも統合されました。SDGsのゴール5は、「ジェンダー平等と全ての女性・少女のエンパワメントの達成」です。2030年までに、ジェンダー及び多様性の視点に立った防災・減災・復興を促進することが、全ての国や地域に求められているのです。女性をはじめとして、全ての人々が防災政策の策定及びその実施に積極的に参加し、リーダーシップを発揮することが災害に強いコミュニティをつくることに繋がるのです。



UN Womenネパールから技術研修(石工)を受けて、2015年のネパール大地震の後、政府の住宅再建の技術者として活躍しているサビーナさん。それまで石工は男性の仕事だと思われてきた。

防災活動における女性のリーダーシップとレジリエンス

(2019年7月19日UN Women News 抜粋)

2019年に開催された第4回世界復興会議（WRC4）と2019年防災グローバルプラットフォーム会合においてUN Womenが主催したセッションでは、女性のリーダーシップ、ジェンダー視点に立った災害リスク削減（DRR）、災害からの回復力（レジリエンス）の構築が議論の中心になりました。

災害のあらゆる活動に女性のリーダーシップや経験、知識を活かすことができれば、一層効果的な防災に向けてイニシアチブを取れることが明らかになっています。会議の参加者は、DRRと復興活動に際して女性がリーダーシップを発揮できるよう支援することが必須であり、その展開や実施のあらゆる段階に女性の意見を反映させることが重要であるということに合意し、特に性別、年齢、障害別の災害関連データの収集が急務であると訴えました。



農山漁村女性と少女がクライメート・レジリエンス(気候変動の影響からの回復力)を構築する

(2019年10月14日UN Women News 抜粋)

世界中の何百万人もの農山漁村女性・少女が家庭、職場コミュニティで欠かすことのできないクライメート・レジリエンス(気候変動の影響からの回復力)を構築しています。農業、食の安全、栄養、土地や自然資源管理で大きな役割を果たしているのです。実際、世界的に見て、雇用されている女性の3人に一人は農業分野で働いています。気候変動の命に係わる脅威に対抗するために、農山漁村女性・少女は様々なやり方の中から、気候変動に対応できる農業、維持可能なエネルギー技術を取り入れようと道を切り開いており、政府や地方自治体が自分たちの気候変動の中で直面する課題を認めて対策を取ってほしいと願っています。同時にSDGsに合わせてジェンダーに呼应した政策、プログラムを実施してほしいと訴えています。

政府も農山漁村女性やそのコミュニティのレジリエンスや適応能力を支援する努力を行っており、ジェンダー平等への配慮は農村・農業開発や気候変動枠組の中にだんだん取り入れられて来ています。



2020年「国際女性デー」、北京+25に向けて

2020年3月8日の国際女性デーのテーマは”私はジェンダー平等世代である:女性の権利を実現させる“です。今年UN Womenの新たな、多世代に向けたキャンペーンを展開し、北京で開催された国連第4回世界女性会議から25周年にあたる記念すべき年といたします。

2020年国際女性デーは、ニューヨークの国連本部で3月6日午前10時からの式典で幕開けします。このイベントでは、女性・少女の次世代のリーダーやジェンダー平等の活動家と、20年以上前に北京行動綱領の作成に尽力した女性の人権の提唱者やビジョンを持った女性たちが一堂に集まります。昨年にはUN Womenにより、若者からなるBeijing+25 Youth Task Forceが結成され、このメンバーに日本人の山口慧子さんが選ばれました。



スローガンを掲げる少女たち

Beijing+25 Youth Task Force set up by UN Womenメンバーに選ばれて

日本YWCA幹事 山口 慧子

日本YWCAという女性団体で働き始めてから、3年半が経った。この間、私が取り組んできたことを一言で表すと、「若い女性と少女との歩み」だった。具体的には、CSW(国連女性の地位委員会)への若い女性の派遣や、日韓の若者が両国共通の課題を協議する「日韓ユース・カンファレンス」、中高生を対象にした平和学習など。誰の身にも起こる人間関係のこじれに悩み、孤独と劣等感でいっぱい「少女」だった頃の私。時々、当時の自分を思い出しては、性差別とエイジズムの複合差別に全身でぶつかり、声を奪われた若い女性や少女をこれ以上増やさない。彼女たちが自分の足で立ち上がり、人生や周囲の社会を決めていけるように、傍らで応援しつつ歩んでいきたい。と、想いを新たに仕事が続けてきた。Beijing+25 Youth Task Force(以下、YTF)に参加を希望したのも、同じ理由からだった。

YTFとは、UN Womenのイニシアチブにより設置された世界中の若者30名で構成されるグループである。1995年に採択された「北京行動綱領」から25周年の節目の年となる2020年には、グローバルなレベルで、この間の成果と残された課題についてレビューを行う。このジェンダー平等を目指した具体的な行動計画の実施状況を振り返る過程には、すべての世代、中でも世界の人口の三分之一を構成する若者の声が重要だとして、より多くの若者の参加を促す目的でYTFは設置されたのである。

30名のYTFメンバーそれぞれが多様な背景を持っていることが、このグループの特徴である。出身国だけでなく、階級や民族、性的志向・ジェンダーアイデンティティ、障害・HIV/AIDSの有無、移民・難民など、世界の縮図のような豊かな違いを象徴している。若者としてカテゴリー化された時、互い間の違いが見えにくくなるのが往々にしてあるが、若者は同質ではないことを強調したい。YTFがインクルーシブなグループであることにより、世界中のさまざまな背景を持つ若者にリーチし、声を拾い上げることが可能になると、希望を持っている。

任期は、2020年9月の第75回国連総会まで。2019年8月より毎週金曜日にオンライン会議を持ち企画を進めてきたが、最初の実質的な働きとしては、2020年3月に「北京+25」のテーマで開催されるCSW64になる。YTFのSNSにて情報をアップデートしていくので、是非ご確認いただきたい。

Twitter <https://twitter.com/Beijing25Youth>

Facebook <https://www.facebook.com/beijing25youth/>

Instagram <https://www.instagram.com/beijing25youth/?hl=ja>



同じくBeijing+25 Youth Task Forceのメンバーで、HIV/AIDSの活動家であるDoreen Moraa Morachaさんと

UN Women国内委員会 年次総会2019報告

UN Women国内委員会年次総会2019は、9月30日～10月4日、ベトナムのダナンに於いて開催され、日本を含む11の国内委員会が出席しました（UN Women国内委員会総数は12）。今回のテーマは、Generation Equality。2020年が、北京行動綱領採択25周年（北京+25）、UN Women設立10周年、国連安保理決議1325採択20周年、国連設立75周年の記念すべき年となるため、7月7日～10日、パリに於いて2020 Generation Equality Forumが開催されます。このパリ・フォーラムに向けてのUN Womenの準備状況、今後の会議日程などにつきDaniel Seymour UN Women戦略的パートナーシップ部長から詳細説明があり、国内委員会として、その過程においてどの様に関わり、貢献ができるかが検討されました。また、今後の広報戦略（Generation Equalityアドボカシー・キャンペーン）につき、Oisika Chakrabarti広報官よりブリーフがあり、本部から発出する広報情報を各国内委員会がその活動のために活用してほしいとのメッセージがありました。

国内委員会に求められる役割としてのファンドレイジングとそのためアドボカシー活動につき、Chiara Pace デジタル・個人・公的寄付課長及びファンドレイジング・コンサルタントによるセッションがあり、デジタル・ファンドレイジングの有効性が指摘されました。

各国内委員会の活動についても、活発な情報共有を行う機会があり、例えば、今回総会の主催国である米国内委員会からは、Tシャツ販売キャンペーンの紹介がありました。

また、ベトナムにおけるUN Womenプロジェクトとして、当国連ウイメン日本協会が支援した女性に対する暴力撤廃のための「男性クラブ（Male Advocate Club）プロジェクト」を視察しました。男性の参加、教育、啓蒙活動を行うこのプロジェクトは、暴力の予防に成果を挙げているとのことで、Elisa Fernandez UN Womenベトナム事務所長より日本協会の支援に対して謝意が表明されました。

今総会の閉会にあたり、UN Women事務局側から、2020年の記念すべき年を、各国における国内委員会の認知度の向上及びファンドレイジングのために、有効に使ってほしいとのメッセージがありました。

（理事 伊藤 光子）



UN Women国内委員会年次総会2019参加メンバーと



「ベトナムのダナンにおける女性と女兒に対する暴力のない地域づくりプロジェクト」の男性クラブを訪問

国際ガールズデー記念 チャリティ朗読会 「赤毛のアン」開催報告

国連[国際ガールズデー]のグローバル・キャンペーンの一環として、「チェンバロと奏でる青木裕子の『赤毛のアン』チャリティ朗読会」が10月7日、伝統と格式を誇る日本工業倶楽部の大会堂に、180人の参加者を迎え、開催されました。朗読者の青木裕子さんのメリハリの利いたやわらかい声と、小澤章代さんのチェンバロの典雅な響きは、会場のクラシックな雰囲気と相まって、参加して下さった皆様の心を満たしたようです。アンケートでは、“チェンバロの優雅な音色で「赤毛のアン」のストーリーが楽しめた”、“女性の生き方、家族の幸せ、すべて朗読と会の主旨が重なっていて良かった”などの感想をいただきました。参加費からの収益金はすべてUN Womenの少女・女性支援のプロジェクトに充てられます。



「第8回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」でジェンダー平等の推進がテーマに

神田外語グループ・読売新聞社共催による第8回全国学生英語プレゼンテーションコンテストが2019年11月30日、東京大手町の読売ホールで開催されました。

コンテストではSDGsに関連した3つの選択テーマが盛り込まれ、そのひとつに、「ジェンダー問題を考えるワークショップを提案」が掲げられ、ニューヨークのUN Women本部で日本の中高生以下の子どもたちにジェンダー平等に関するワークショップを実施するというプログラムを考えて提案するという課題がありました。コンテストには、国連ウィメン日本協会を代表して、田中由美子理事が審査員として出席しました。そのほかのテーマとしては「外国人の若者を日本へ、ワーホリ計画を提案」、「世界を救え、食品ロスの削減を提案」が掲げられ、学生たちは緊張の中にも、ユーモアも交えながら、独創的な、熱意あふれるプレゼンテーションを披露、競いました。

この大会には全国から、過去最高の793名がエントリーし、本選には個人5名、グループ5組が選ばれ、そのうち個人の部では2名、グループの部では3組が、ジェンダーのテーマを選択し、さらにその中からグループの部の優秀賞とインプレシブ賞が選ばれました。

大会主催者側からは、“予想以上の応募者がジェンダーのテーマを選んだのには大変驚きました。”また、審査員の田中理事は、“ジェンダーのテーマにどれくらいの応募が集まるか心配していましたが、若い人のジェンダーへの意識の高まりに期待が持てて大変嬉しい。構成、アイデア、プレゼンテーション力など、全体にレベルがかなり高い。楽しみました。”と評価されていました。

(理事 岩城淳子)



コンテストの様子



田中理事

国連「国際女性デー」 ミモザ チャリティ ランチオン開催のご案内

3月8日は国連「国際女性デー」です。また今年、世界のジェンダー平等社会を目指すUN Womenは設立10周年を迎えます。国連ウィメン日本協会は「国際女性デー」ミモザ チャリティ ランチオンを開催し、特別ゲストに、壮絶な人生を切り開き、女性陶芸家の第一人者として現在もご活躍中の神山清子氏をお迎えします。

参加費からの収益金はUN Womenの女性・少女のためのプロジェクト資金にあてられます。

日時:2020年3月10日(火)開会 12時(開場11時30分)

場所:国際文化会館・樺山ルーム(地下一階)

特別ゲスト:陶芸家 神山清子氏

神山氏は現在NHKで放映中の連続テレビ小説「スカーレット」のモデルといわれ、男性中心の焼き物の世界で、独自の道を切り開いた信楽焼きの女性陶芸家です。

参加費:8,500円(着席形式の昼食)定員100名(先着順)

申し込み期間:2020年1月20日(月)~2月20日(木)まで

申し込み方法:ホームページまたは事務局

(TEL/FAX:045-869-6787)にお問い合わせください。

ホームページを新しくしました!

国連ウィメン日本協会は設立10周年を迎えます。この機会にホームページを改訂し、若い方々にも手軽に訪れていただけるよう、スマートフォンでも見やすいサイトを構築しました。昨年、一足先に「寄付する」サイトはリニューアルしましたが、今回はそのメインサイトとして、日本協会の支援活動、UN Womenの親善大使やプロジェクト等をコンパクトにまとめました。

以下のURLから国連ウィメン日本協会の新しいホームページを訪れてみてください。

<http://www.unwomen-nc.jp/>

寄付サイトのURLはこちら

<http://www.unwomen-nc.jp/donation/#kokuren>



協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 北九州

国連ウィメン日本協会北九州は、1994年7月に国連婦人開発基金（ユニフェム）日本国内委員会北九州地域委員会として発足し、25周年を迎えました。

11月17日(日)には、北九州市男女共同参画センタームーブにおいて、設立25周年記念事業を行いました。最初に、本会に多大な功績を残して昨年9月にお亡くなりになった三隅佳子前会長への功労者表彰を行いました。

その後、国連ウィメン日本協会副理事長の三輪敦子さんに「2020年の国連ウィメンと私たち」(写真)、続いて国境なき医師団日本専務理事の黒崎伸子さんに「私が紛争地に行く理由～いのちをつなぐために」と題してお話いただき、私たちの活動の意義を再確認するとともに、30周年に向けて思いを新たにいたしました。

最後は、LGBTの啓発に取り組まれているROSEさんによるギターと歌で心温まる時間を過ごしました。

これからも、「世界の女性と手をつなごう」を合言葉に、関係団体の皆様と連携を図りながら、充実した活動ができるよう取組んでいきたいと思います。

事務局 鷹取典子



国連ウィメン日本協会 大阪

6月に開催されたG20大阪サミットのために訪日・来阪したUN Women事務局長のムランボ・ヌカカ氏が、6月29日(土)にクレオ大阪中央に来館されました。

当日は、大阪で女性やジェンダー問題に取り組んでこられた様々な団体の皆さんや、学生の方々との交流会を開催しました。

ヌカカ事務局長は、集まった市民団体の活動報告を聞き、参加者に感謝の意を表するとともに、若い世代が意思決定に参画することの重要性や、家族形態

の変容とともに今後多様な政策が必要であるなど、ジェンダー平等を達成するためのさらなる運動を呼びかけました。そして、北京女性会議から25周年にあたる2020年を契機に、北京行動綱領の強化や、新たな課題に取り組む必要性を訴え、日本、そして大阪も議論に加わってほしいと述べました。交流会も和やかに開催され、大変有意義な時間となりました。

事務局 長栄くみ子



国連ウィメン日本協会 多摩

毎回、イベントの日程を決めるのに苦労していますが、今回は日曜日だったので、思い切って7月7日に七夕コンサートを企画してみました。ソプラノ、テノール、そしてピアノをお願いしました。オペラ、カンツォーネ、抒情歌そして最後は「ウエストサイドストーリー」より「トゥナイト」と、盛りだくさんのコンサートでした(写真)。

8月には、多摩のグッズをお願いしているモンゴルキルトセンターの15周年記念イベントがウランバートルの国営アパートで開催されるとのことで、行ってきました。好評なスリッパを作っている工場も見てきました。年齢も様々な女性たちが1足ずつ全て手作りで仕上げていました。キルトの指導や、品質管理のアドバイスの為に何度も、何人もメンバーが訪問してきた成果が見られました。

事務局 小川裕未



国連ウィメン日本協会 よこはま

2月の総会、3月の国際女性デーイベント、と盛り上がった2019年の前半。東京でのイベントに新規出店もし、ウィメンショップの運営・グッズ販売も順調でした。後半には横浜の3館あるフォーラムの、秋のまつりすべてに出店して、バザーやグッズ販売を頑張り、地域の方々と交流しました。

そして11月には戸塚さくらプラザホールでチャリティコンサートを実施。「4人の男たちが奏で魅せるクラシカルスペシャル」と題してチェロの干波（ウハ）氏、ピアノの中山博之氏、バイオリンのビルマン聡平氏、テノールの城宏憲氏と、世界的に活躍する4人の男性たちの素晴らしい演奏に、会場を埋め尽くした観客の拍手が鳴りやまず…（写真）。出演者のチャリティ精神に大いに感謝し、音楽の良さをかみしめられた至福のひとつときとして、一年の締めくりに相応しいイベントとなりました。

副会長（総務部） 竹内美千代



国連ウィメン日本協会 東京

今年度の連続講座は、10月3日（木）に津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室において開催された。今回のテーマは『開発途上国のコミュニティ開発と国際協力について考える—SDGs目標達成に向けて』で、ソーシャルワークの専門家、原島博氏を講師にお迎えし、フィリピンの社会開発の歴史を踏まえつつ、開発と支援との関連性について深く学ぶ機会を与えられた。10月31日（木）には、チャリティリサイタル「檜山文枝さんの朗読の会『夜の辛夷』」が都の有形文化財である求道会館で開催された（写真）。国連ウィメン日本協会東京は設立20周年、チャリティコンサートは通算30回という記念すべき節目にあたり、民芸を代表する俳優の檜山文枝さんのご協力を得て今回の企画を実現することができた。檜山さんの優れた朗読

は、山本周五郎の作品に描かれた男女の真実と、現代もなお依然として繰り返される女性の生きにくさを見事に浮き彫りにし、満席の参加者を感動の渦の中に巻き込み魅了した。恒例のバザーも、同窓会や教会のバザー会場など随所で活発に行われた。

副会長 阿部幸子



国連ウィメン日本協会 さくら

毎年9月21日は、『国連平和デー』です。岐阜県高山市ではこの日を「高山市平和の日」と定めています。国連では、国際平和デーに日本から寄贈された鐘を鳴らしますが、高山市でも正午に一斉に鐘を鳴らします。高山市平和の日記念事業である「飛騨高山国際平和の日の集い」に世界銀行日本事務所 大森功一上級広報官と共に、大槻明子国連ウィメン日本協会さくら会長は、市長・市民と共に平和のシンボル「平和への絆」の鉦をうち鳴らしました。記念講演では、SDGs「誰1人取り残さない」社会実現のため、目の前のひとりを大事にすることから平和は始まることを訴え、その主役こそ女性である。“思慮深い献身的な市民の小さな努力が世界を変えて行く力”になる。持続可能な開発目標達成の構築を誓い合いました。

広報 山内聖士



事務局からの報告

■マンスリー寄付のお願い(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて毎月定額を継続してのご寄付(マンスリー寄付)ができます。一回手続きをしていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。

月額1,000円、2,000円、3,000円、5,000円の4つのコースから選ぶことができます。国連ウィメン日本協会ホームページからアクセスをお願いします。

◎マンスリー寄付、インターネット寄付はこちらから

<https://kessai.canpan.info/org/kokurenwomennihon/>



■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくか、ホームページでもお申込みいただけます。

【年会費】個人 1口 5,000円

団体 1口 10,000円



■寄付者一覧(前回掲載以降2019.12.27現在)

有馬真喜子 橋本ヒロ子 衛藤栄津子 小野啓子 山崎友子 本田均平 本田敏江 鷺見八重子 佐藤想子 籾内麻貴 周欣宇 今井公美子 鈴木千恵子 神野千代 RYUSIA 山崎利恵 山内理絵 Akiko Kinoshita 新谷はる香 木原直子 阿部晴子 小野田賀寿美 松本幸恵 讚井暢子 豊田皓 斉藤京子 大西珠枝 鈴木登美子 永谷多光 矢野由香里 高久了 伊藤光子 仁田有紀 大川紀代子 大山行雄 小笠原崇嗣 伊藤悠美 高田順江 藤原康洋 深谷知昭 友政蘭 石橋三洋 静川彩子 鹿野京子 檜垣真帆 竹本博文 岩城淳子 松村由佳 森真理子 渡邊皓子 谷田朋子

藤原麻千子 尾崎直子 荒真理 ブルーベルジャパン(株) ブックオフコーポレーション(株) 群馬婦友会 朗読会募金箱 上里町女性会議 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会北九州 国連ウィメン日本協会大阪 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会多摩 (株)ソシア

■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2019.12.27現在)

原加容子 大阪市男女いきいき財団 仲さつき 佐賀奈穂 島山禎 国連ウィメン日本協会よこはま 藤井礼子 上岡加奈 SCRI 横井明子 井下翔平 明石晋典 山崎愛加 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 上鶴瀬典子 山下菊栄

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体16団体(前回掲載以降2019.12.27現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会多摩 全国友の会 (株)高島屋 (公財)イオン1%クラブ 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京 国際ゾント26地区 (一社)大学女性協会

■正会員個人35名(前回掲載以降2019.12.27現在)

■賛助会員団体12団体(前回掲載以降2019.12.27現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部 にいがた女性会議 (公財)せんだい男女共同参画財団 越谷ミズの会 (株)グッドバンカー (株)電通 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 (株)リコー (株)フジテレビジョン 国際ゾント姫路ゾントクラブ (株)クロスメディア・ランゲージ 特定非営利活動法人ウイメンズアイ

■賛助会員個人152名(前回掲載以降2019.12.27現在)

新規入会:大岡勇人 林穂乃果 谷田朋子 佐賀和歌子

以上、敬称略

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL/FAX 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

